

**令和3年度 第2回  
とみやわくわくミーティング  
実施報告書**



**富谷市総務部市民協働課**

## 実施状況

テーマ	観光交流について ～とみやらしい観光とは～
日時	令和3年10月5日（火）午後3時00分～午後5時00分
場所	富谷宿観光交流ステーション「とみやど」
座長	宮城大学 事業構想学群 准教授 佐々木 秀之
参加者	一般参加 11名 宮城大学学生 4名 富谷市 8名（市長、副市長、総務部長、産業観光課長、市民協働課3名 産業観光課1名） 傍聴者 6名

時間	内容	状況写真
15:00～ 15:30	初インテ-ション ①自己紹介 ②集合写真	 
15:30～ 17:00	ミーティング ①市長あいさつ ②ミーティングレクチャー ③情報提供 （産業観光課） ④意見交換 （グループワーク） ⑤市長感想	     

## 市長あいさつ



皆さんこんにちは。今日は、令和3年度第2回目のとみやわくわくミーティングにご参加いただき誠にありがとうございます。今回は、この「とみやど」を会場に開催させていただくこととなりました。富谷市は「住みたくなるまち日本一」を目指してまちづくりを進めているところでありますが、今年も東洋経済新報社さんが調査している「住みよさランキング2021」で2年連続で宮城県第1位、東北・北海道地区では第2位でございました。

また、大東建託さんで調査している「いい部屋ネット」の「街の住みこちランキング2021」では3年連続宮城県第1位、2年連続東北第1位ということで、大変、高評価をいただいているところでございます。特に「住みこちランキング」は8つの指標項目があり、その中で7項目はすべて5位以内にランキングされているのですが、唯一ランクに入っていない指標項目が観光でございまして、東北でも112位ということで、富谷市は元々、観光資源が無いということが一番の弱点でもございました。そういった中でなんとか観光の拠点をつくれないうかということが長い間の課題だったわけですが、富谷市が仙台藩祖、政宗公の命を受けて奥州街道の宿場町として誕生したのが1620年ということで、ちょうど昨年、開宿400年を記念して、旧醤油屋さん跡地をなんとか生かせないかということで国の地方創生推進交付金を活用させていただき、この富谷宿観光交流ステーション、通称「とみやど」を整備しました。本来であれば昨年の10月10日にオープン予定でありましたが、コロナ禍で延期が続き、まん延防止等重点措置が解除されるのを待って、5月15日に盛大なセレモニーも無しで関係者の方のみ、ごく少数の方にご出席いただいてテープカットだけでオープンいたしました。最初は果たして人が来てくれるだろうかと心配しておりました。皆さんもおそらく同じように心配していただいたと思うのですが、オープン以来、想像をはるかに超える多くの皆さんが連日来てくださっております。国の交付金をいただく時に年間来場者数10万人という目標を立て、当初は営業時間を10時から夜までの予定で準備をしていたのですが、このコロナ禍でオープンからずっと平日は11時から15時まで、土日祝日は17時までということで時短営業をしています。そういった中でも9月末で9万人を超えております。8月に緊急事態宣言が発令されたので、この時期は飲食店3店舗を閉め、かなり客足が落ちた中でも、オープンしてから4か月ちょっとで目標を達成する勢いでございます。順調な滑り出しであるとは言え、まだスタートしたばかりでございます。富谷全体、これから観光のあり方をどう考えていけば良いかということで、今回のテーマが「観光交流について～とみやらしい観光とは～」ということで皆さんからご意見をいただくために今日はご参加いただいたところでございます。皆さんそれぞれに観光交流について色々なお考えをお持ちだと思います。忌憚のないご意見をいただきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

また、本日も座長としてコーディネートいただきます宮城大学の佐々木准教授、そしてアシスタントとして宮城大学の4人の学生の皆さんにもお手伝いいただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

開会にあたりましてのごあいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

## ミーティングレクチャー（座長）

皆さんにどのような意見を出していただくかと言いますと、まず一つ目がサブタイトルにもなっています「とみやらしい観光」とはどのようなものだろうということについて意見を出し合いまして、その後、マイ富谷ツーリズムとでも言いますか、自分たちでできる富谷の観光というのは何か考えられるものはあるのかということで、短時間ですけれども議論を進めていきたいと思います。ミニレクチャーとして大学の気分を味わっていただくということで、皆さんにテキストとしてこちらの本をお持ちしましたのでご覧いただきたいと思います。「とみやらしい観光」について話し合うということで私自身、非常にわくわくしたのを感じました。というのも、私は宮城大学に来て6年になるのですけれども、宮城大学でも地域のことを一生懸命やろうということで地域創生学類というのを作ったのですね。その時に色々な地域から集まった先生たちで東北の観光とはどういうことが良いのだろうというのを考えたのがこの本です。この本は何かというと、イギリスの研究者たちがイギリスらしい観光を研究しているものの翻訳本なのです。この本のタイトルは「NARRATIVES OF TRAVEL AND TOURISM」という風書いてありますけれども、私たちはこの「ナラティブ」という言葉に注目していました。ナラティブというのは「語り」ということです。地域の皆さんの「語り」。よく「ストーリー」という言葉がありますね、物語を作るということ。これはどちらかということ、生産者、地域の人でない人も含めてストーリーを作るということもあるのですが、イギリスの旅では地元の人を非常に重要視しています。サブタイトルは私がつけたのですけれども、観光におけるナラティブの活用可能性ということで、ナラティブというものを日本でも活用できないかと。そういったときに、富谷というガーデンシティなど、非常にイギリスを彷彿させるネーミングがついていたりしますが、富谷でもナラティブというものを活用できると思います。

213ページにあとがきを書いています。ここに本の内容をほとんどまとめていますので、少し紹介させていただきます。最初に東北の観光ということを私たちが少し考えたいなと思ったということを書いています。コロナの前でした。当時インバウンドをいかにするかということ日本全体で言われていて、その方向で進んでいたのですけれども、やはり東北ということを見るとインバウンドだけでは厳しいのではないかと感じました。宮城大学の先生と言いましても、全国から集まって来てまして、他の地域でも観光をやっている中で、東北は東北らしい観光あるいは旅や旅行の受け入れ方があるということをお話ししました。214ページにはその観光の担い手として、日本ではDMO（Destination Marketing / Management Organization）という観光を推進する団体を作ったこと、そして震災復興などでその観光を推進する団体が東北にも多くできていることを紹介しまして、コロナでムードが変わったのですけれども、2019年、2020年あたりはイギリスの旅のガイドブック、ロンリープラネットとか214ページの下のほうに書きましたけれども、東北のことが全国的に取り上げられていました。例えばロンリープラネットというガイドブックで取り上げられたところだと、宮城県の柴田町です。桜の山にケーブルカーがありまして、そこから降りてくる場所の写りが載ると、海外からそこに人が訪れたりですね、



インバウンドは厳しいのですが、発信の仕方によっては東北の地でも思いもしないようなものに多く人が来るということが明らかになったと話されていました。ページを飛ばしまして222ページですが、観光というものも大きく変わってきていて、観光の専門家が成り立ちにくくなってきています。かつては観光の先生というのがいたのですが、近年では色々なアプローチから観光をやっています。街づくりをしている人はほぼ観光をやっているという認識の中で、学生たちは何ができようかと考えたときに、学生たちが考えたのが223ページのマップです。柴田町でも、誰がガイドをやるのかとなったときに、一番英語を一生懸命勉強しているのは中学生ではないかということで、中学生がガイドをやっているということを聞いて、宮城大学の学生たちが地域のインバウンドに来た人にどのようなことをやったら良いのだろうかということを考えました。地域に行くとうちにはなかなか資源がないよと言うのですが、大崎市の松山という地域に入った学生たちがお土産話も一つの資源ではないかということで自分たちで翻訳して絵を描いてマップを作ってですね、言葉が伝わらないのはしょうがないが、このようなマップが至る所にあると留学生がまちの親切さを感じられるということで、作ったものをここに掲載しました。



今私たちが富谷でやっているようなことも、イギリスで最新の研究として取り上げられています。私たちも東北の観光を考えてきましたが、より深掘りして富谷の観光ということをも自分たちの生活や日々の活動の中から、このようなものが富谷の観光ではないかということを忌憚なくお話してほしいと思います。もう一つは、ここ2年くらい観光が厳しい状況にありましたが、コロナウイルスが収束しつつありますので、今このことを話し合っておくのは重要であると思います。コロナ前はなかなかインバウンドも東北は厳しいと言われてきましたが、震災過程ではマイクロツーリズムという言葉もはやりまして、少し観光のあり方も変わってきました。もしかしたら、これから東北が観光の主役になっていく可能性もありますので、今日は学生たちを交えさせていただきながらポジティブな議論を展開させていただければと思います。

オリエンテーションということで、お時間があれば会場を見ていただきながらとみやどのご説明をしたいなと思っていたのですが、できなかったのでもう少しだけとみやどの紹介をさせていただきたいと思います。資料でわくわくミーティング補足資料というものがお手元にあると思います。その中で資料7ページにとみやどのコンセプトを示しております。富谷と繋がる、世界が広がるというコンセプトの基に地域の人々がつながり、富谷を代表する新しい交流の拠点へ、ということで、今座長からもお話があったと思いますが、富谷は人というのがキーワードになってくるというのを私も感じまして、とみやどの可能性を感じわくわくしています。もう一つは7ページの上段にとみやどの特長として記載しておりますが、皆様の後ろのブースにテナントがあります。ジェラート屋さんと中華料理屋さん。私の右手にあるのが定食・惣菜屋さんということで3店舗はチャレンジ館となっております。これはとみふらで人材育成、人づくりをして、そこで芽が出てきた塾生にとみやどでどんどん成長していってもらおうというところが、他の商業施設と違うところで特長ともなっています。詳細はパンフレット等にありますので、お時間があるときにご覧いただければと思います。



それでは資料に沿って観光に関する富谷の現状、目指すビジョンを簡単に説明させていただければと思います。まずは総合計画からの抜粋です。観光分野のところではどんなことが書いてあるか簡単にまとめてあります。しんまち地区の活性化と地域資源を生かした魅力づくり、スイーツのまちということで、キーワードは3つあるかと思います。まずは富谷の礎を築いたしんまち地区というのが一つ、それから地域資源ということでは、地域資源には色々あると思いますが、ヒト、モノ、コトといった切り口でキーワードになってくると思います。もう一つは六次化の推進であるとか、関係人口の拡大、そのためのツールとしてのとみやスイーツというものをしっかりとブランディングしていこうというのが総合計画でうたっているところです。

続いて現状についてですが、こちらは冒頭の市長のあいさつにありましたが、民間の調査で非常に高い評価をいただいている強みを生かしていきたいと思います。ただ一方で、観光分野は非常に低い評価ということで、この分野をいかに高めていくか、ここはまさに課題であって、逆に非常に伸びしろがある、可能性があると思っておりますので、皆さんから色々なアイデアをいただければと思います。

あとは中長期的なビジョンですが、目指すゴールとして、まず数値的なゴールとしては交流人口16万人と定めております。令和7年度ということで数値目標を掲げておりますが、中段の図は総務省のホームページに載っているものですが、横軸が地域との関わりへの想い、縦軸が現状の地域との関わり、その中で交流人口、関係人口、定住人口が定義づけされています。本市としては、色々な仕掛けで交流人口を増やし、そこからいかに関係人口へ昇華させて、最終的に定住人口に繋げていくかが持続

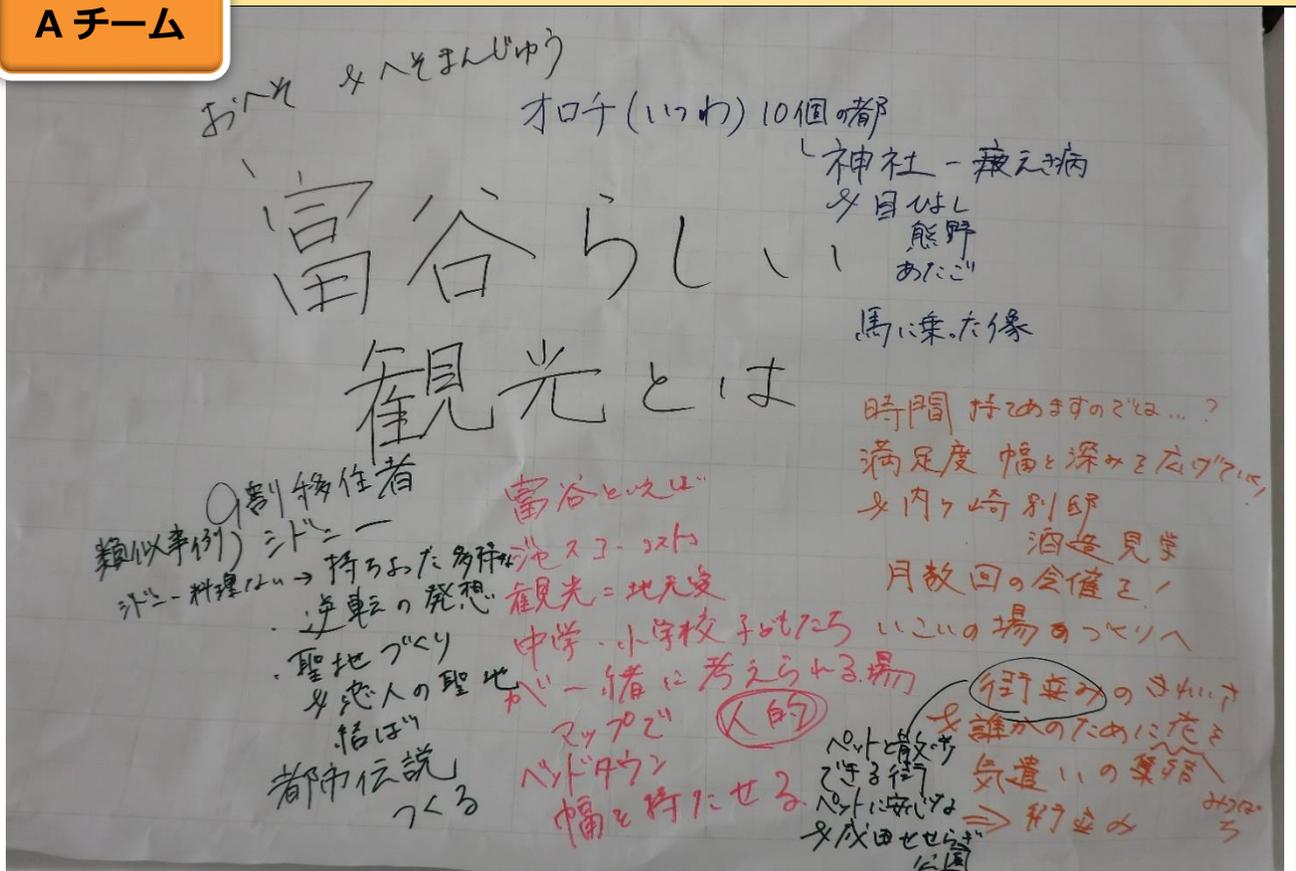
可能なまちづくりには必要であって、観光分野でもここを見据えて進めていきたいと思っております。

最後に「とみやらしい観光」ということで、これから皆様に色々なアイデアをいただく上で、産業観光課として今必要と考えられる視点を記載しております。まず一つは地域資源の発掘と活用という部分で、今までのように、史跡やきれいな海などが無い富谷は観光弱いよねということではなくて、座長からのお話にもありましたが、観光の定義も変わってきている中で、そこを強みとしてどう捉えていくかという岐路にあることを含めて、ヒトであったりモノであったりコトであったり、色々な切り口で面白いコン

텐츠を作り出していきたいなと、むしろそこが必要ではないかというところ。あとはポストコロナということで、一気に整備されてきたのがデジタル化の部分です。キャッシュレスを含めてここは必須になってくるだろうと。最近メディアでも流れていますが 5G やソサエティ 5.0 など、これまで以上に IT を使った世の中になってくると。そこにしっかり対応した観光施策が必要だと思っています。またこれも座長からお話がありましたけれども、コロナによって人の行動変容も大きくなっています。集団から個人へ、身近なところにちょっと出歩くというマイクロツーリズムも観光の施策としては非常に可能性があるのではないかと考えております。また、今年度中にできれば地域商社を立ち上げて、民間の活力をしっかりと生かしながら行政と民間が一体となって色々な事業企画をしていきたいと思っておりますので、その民間の活力という視点でもぜひアドバイスいただければと思います。



Aチーム



中間発表

歴史と現代の町並み、新しくつくるという3つの軸で話し合いました。歴史では富谷は10個の宮をつくったという歴史がありますし、それに付随した神社がありますので、そういうところに焦点を当ててみようとなりました。あと団地の街並みがきれいなので、街並みを紹介したりとか、そこを使ったペットの散歩コースなど街並みを活かしたもの。あとは地元愛が強い方がいらっしゃるので、それを醸成するために、小中学校で観光について考える場を作ったりする。新しいものとしては、富谷は企業が各地から寄せ集まっている状態なので、日本中の各地の料理が食べられるのが富谷みたいな話にする。あとは恋人の聖地みたいな都市伝説を作ってしまうというような話が出ました。

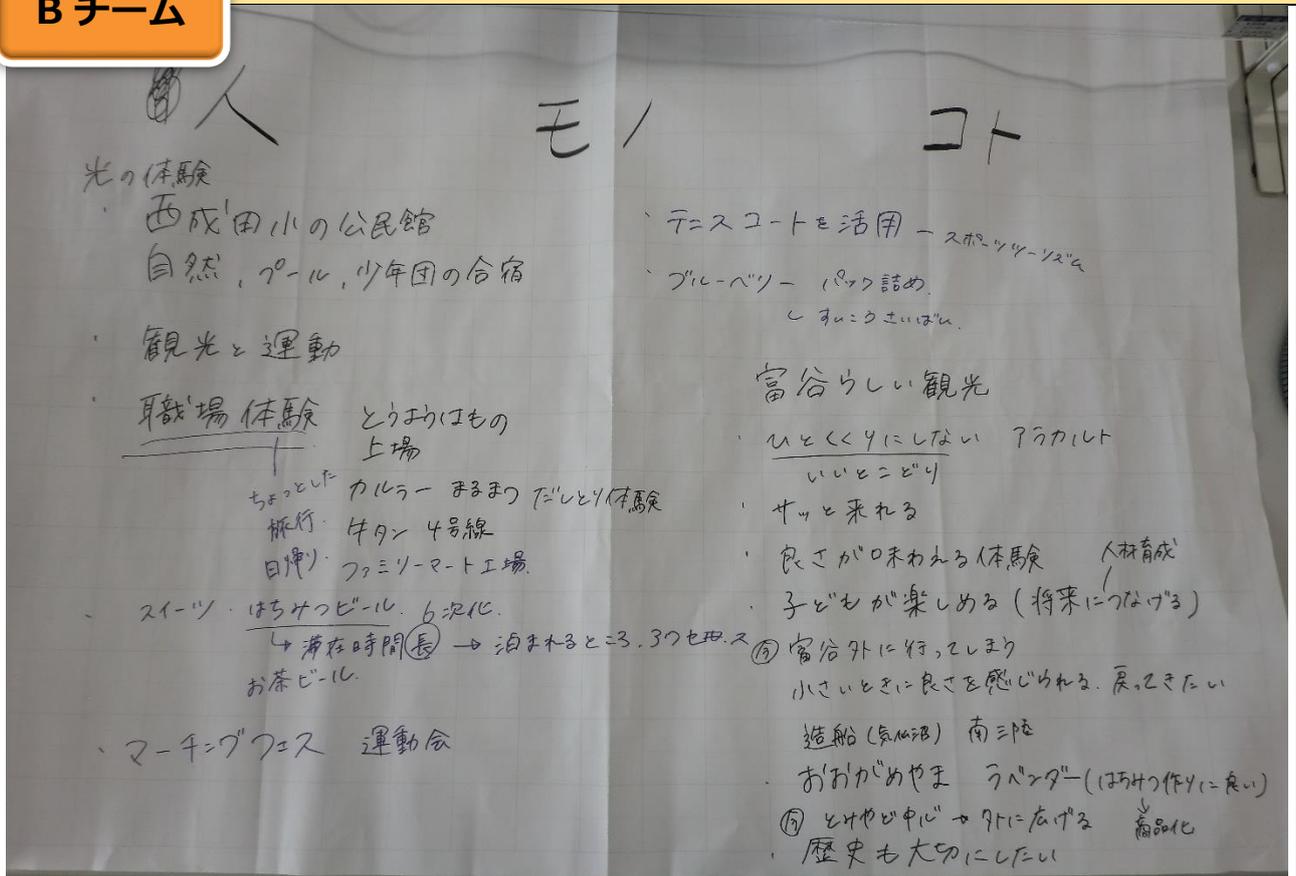


まとめ

- 古いものも大事にしつつ新しいものを創っていく
- 幅広く富谷以外の所と交流する、つながりを持つ
- 自転車で周遊する



## Bチーム



### 中間発表

観光は光を観ると書いて観光だねということで、どんなところがあるか出してみました。西成田コミュニティセンターは宿泊ができたたり、プールがあったり、自然と親しむことができる施設です。また東洋刃物さんとかカルラさんとか色々な会社があるので、そのようなところで職場体験という形で、やはり子どもが多いまちなので地元の人が楽しめるよ

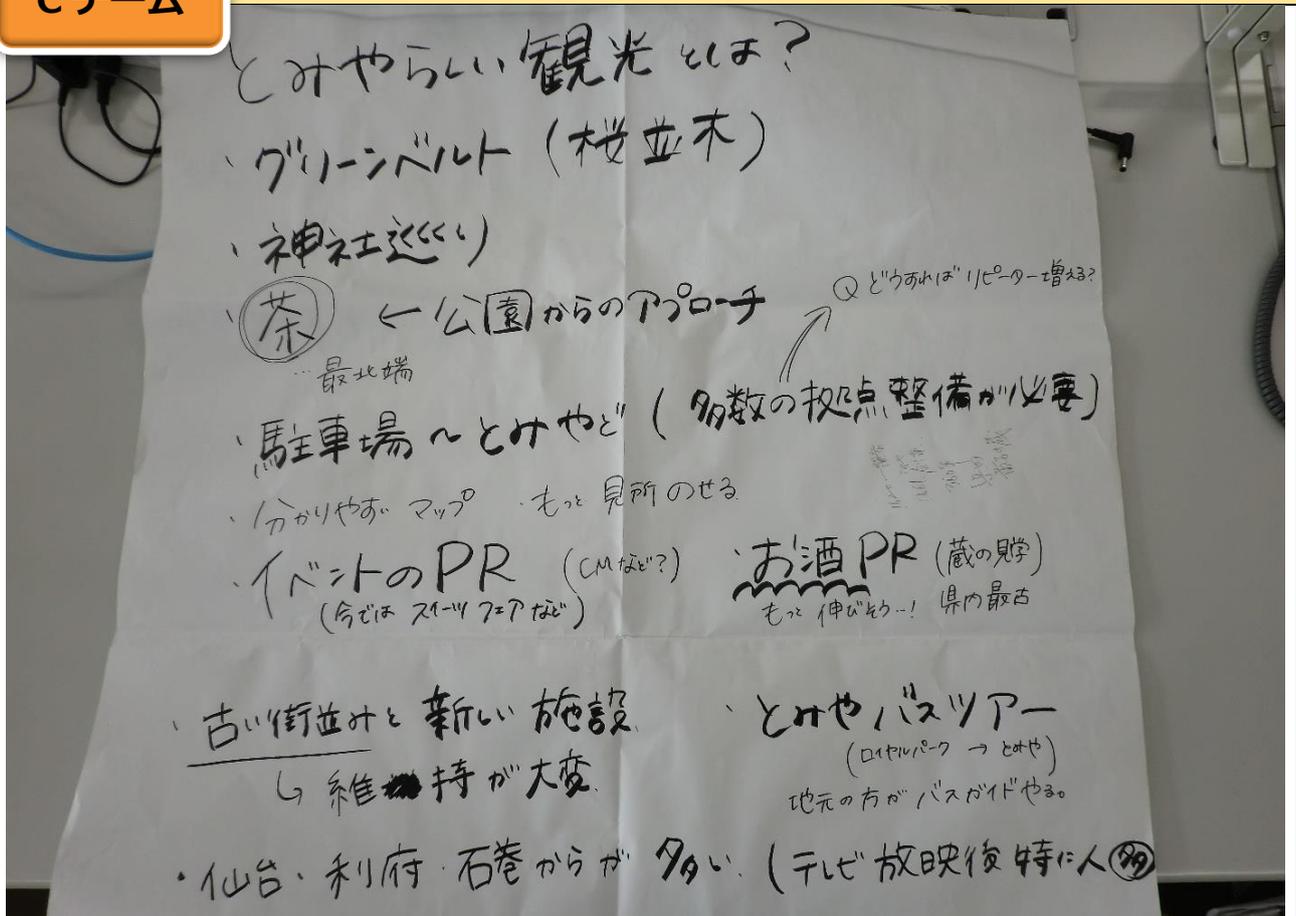


うなものが出てくると外部からも人が来るのではないかと思います。あとはスイーツというところで行くと、はちみつビールができていけれども、お酒を飲んで泊まれるところがあったらいいよねとか。泊まれるところがないとしても、泉中央までの交通機関の便が良くなったら滞在時間も伸びるのではないかと思います。あとはマーチングが盛んだとか、テニスコートが沢山あるので、そこを使ってスポーツツーリズムができれば面白いとか。ブルーベリーも盛んなので摘み取り農園なども楽しいのではないかと話していました。

### まとめ

- ひとくくりにはしない良いところ取りができるアラカルトみたいな観光が富谷らしい
- 長時間滞在しないようなぱっと来て体験ができる、子どもが楽しめる
- 蜜源としてラベンダーが良いということだったので、ラベンダーのお花畑が増えれば景観が良くなる





中間発表

富谷の神社、お茶、お酒などの地域資源、食系のアプローチ、自然系のアプローチとか色々な意見を皆さんから吸収していた感じです。「とみやど」に来て「とみやど」からどこかに行くというのがなく、「とみやど」が目的地になってそこで終わってしまう人が多いのではないかとということで、他にも多数の拠点の整備が必要ではないかという意見が出ました。



まとめ

- 富谷は真ん中にしんまち地区があって、周りに新興住宅があるので、真ん中に古い町並みがある市町村というのはあまりないのでそれを生かしたものが良い
- 仙台、利府と近隣の市町村と連携、色々な市町村から人を呼び込むのが大切
- 色々な観光資源があるのでそこをバスツアーで回る





## B チーム

ど=どもつかえる"富パス"

↑  
いろいろな体験ができる

場所まとめ。その体験からアンバサダーを生み出す。

・ ポケモンGOの富谷版 ブルドゾウ子  
くまのトミー

・ 絵はがき (富谷のおすすめの景観)

↑  
コンテストも。

・ 歴史けいかんに関するマップガイド。  
↑  
良さ・学びをつたえる。

- どこでも使える富谷パスポート

富谷パスポートで色々な体験ができる。そして体験した人が富谷を語れるアンバサダーになれる

- ポケモン GO の富谷版

富谷のブルベリッ娘とかゆるキャラを集めるもの

- 絵はがき

観光と言ったら絵はがきがあると思うので、富谷のおすすめの景観を絵はがきにする。絵はがきコンテストの開催

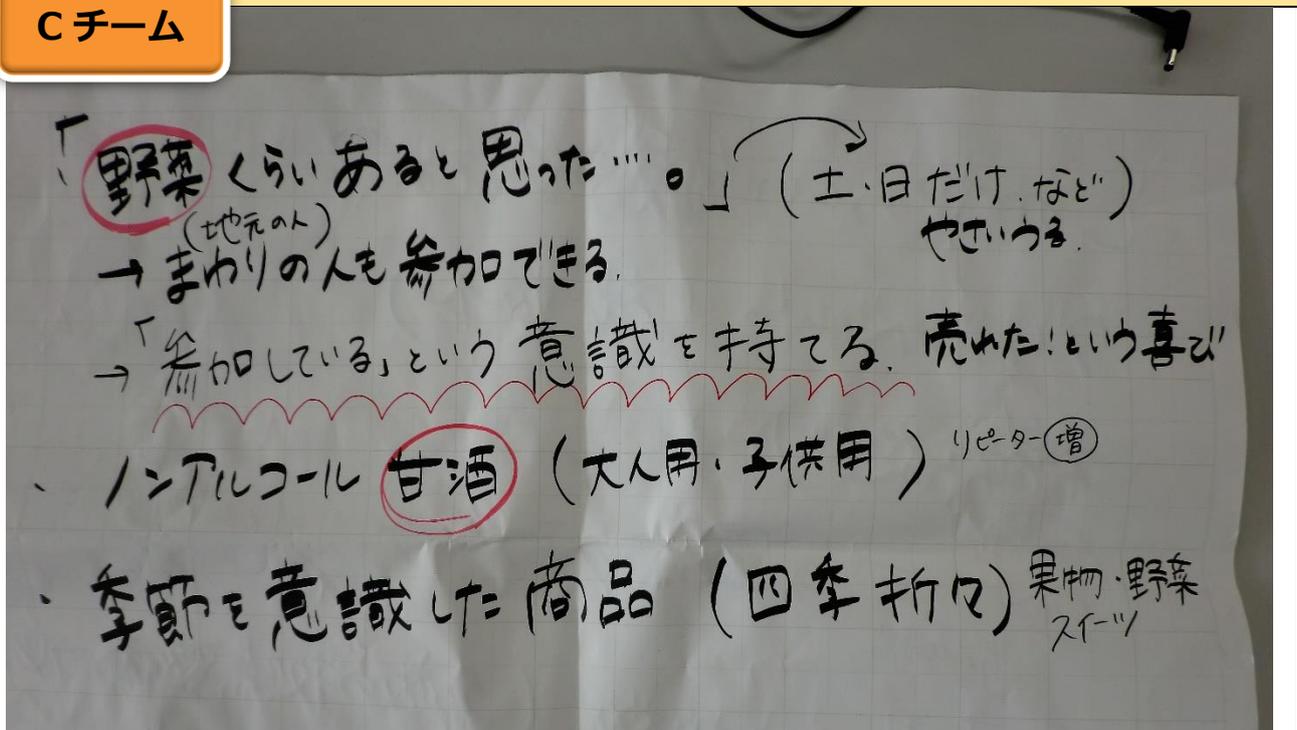
- 歴史景観に関するガイドマップ

富谷の良さや歴史を学べるガイドマップ



### 座長コメント

すぐにできそうなものが多かったですね。富谷パスポートでアンバサダー、富谷を語れる人を増やすとか、ポケモンGOもやっている学生が多いですよ。また、絵はがきが100、200円で売っていると買いやすいですよ。あとはガイドマップの話もありました。



- 野菜

とみやどで野菜を売っていると思ったという観光客がいたという話を聞き、そう思われているというのと、周りに農家が多いということがあったので、野菜をマルシェみたいに出す。そこに地元の人が出店することで参加しているという意識が生まれて「とみやど」が住民一体となった施設になるのではないかと。参加しているという意識を生むという点が重要

- 甘酒

お酒が有名なので、子どもも楽しめるように甘酒を販売

- 季節品

スイーツフェアをやっているが、野菜も季節を意識することで、一回きりでなく季節ごとに訪問してもらえるようにする



### 座長コメント

野菜を生かしたコミュニティと子どもたちの甘酒のコミュニティと季節の野菜というブランディングですね。

## 座長まとめ

皆さんお疲れ様でした。私たち、宮城大学事業構想学群ということで、日頃からアイデアを出すという練習をしているのですが、なかなか無理に出そうと思って出ないのです。今日はどこまで出るのだろうというくらい、この時間でこれだけ出たので本当に素晴らしい時間でした。

宮城大学はよく仙台市にあると思われているのですが、黒川郡にある大学ですので、ぜひ黒川郡の自治体の皆さんと地域商品など作っていきたいと思っていますので、今日の議論から何か一つでも出来たらうれしく思います。引き続きよろしくお願いします。

## 市長講評

今日は皆さん本当にありがとうございました。わくわくミーティングはこれまでも何回も色々なテーマで開催していますが、今日ほど皆さんがわくわくして、始まったと同時に皆さんがどんどん色々なアイデアを出していただいて、本当にあっという間に時間が過ぎた中で、なおかつ素晴らしい意見をいただきありがとうございました。地元の野菜を出す朝市、夕市だったり、ベッドタウンなので昼寝のできるまち、富谷パスポートだったり、皆さんそれぞれに本当に素晴らしいアイデアを出していただきました。そして何よりも今日参加していただいたお一人お一人が富谷愛を持って、日頃思っていることを話していただいたと思います。

今日いただいた意見を参考にして、さらに観光交流に力を入れていきたいと思っていますので、引き続きどうぞよろしくお願いします。本日は誠にありがとうございました。



